





しかし大谷地区にはもともと川がなく、巴川が大はんらんしたり、つなみがきたりしたら、大谷地区の人たちに大きなひがいをだしてしまいます。これをふせぐために、大谷川放水路のゆかは、高さ6m~10m、川はば35mという大きなかべがあり、この人工の川は、平成11年に開通しました(写真②)。また大谷川水門もあり、大きな地しんには自動でかんちして水門をしめ、つなみをふせぐことができます(写真③)。

他にも「あさばた遊水地」を見学しました。ここは大谷川放水路よりも上流にあり、巴川の水があふれた時に「えつ流てい」とよばれる場所を流れて、プールのやくわりをしていく遊水地に水をためておくことができます。遊水地にはいろいろな魚や鳥がいて、しぜんが広がっていました(写真④)。

今年台風10号のえいきょうで、北海道の空知川、岩手県の小本川がはんらんしました。



去年も台風18号のえいぎょうで、いばらき県のきぬ川のていぼうがくずれ、はんらんしました。巴川のはんらんもまた、台風のえいぎょうによるものでした。川のはんらんは、台風による大雨がえいぎょうしていることが分かりました。大きな川もあれば、小さな川もたくさんあります。水がいほとてもこわいので治水たいさくが大事であることを知りました。



↑(写真①)

↑(写真②)



↑(写真③)

↑(写真④) 枚数 3/3

※コピーしてお使いください